

平成26年度

教育委員会点検・評価報告書

下呂市教育委員会

平成27年11月

はじめに

下呂市では下呂市第二次総合計画の教育分野において、「生きる力や豊かな文化を育みます」の基本理念のもと、明日の下呂市を担う人づくりに取り組んでいます。

平成19年6月、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が改正（平成20年4月1日施行）され、各教育委員会は毎年その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を作成して議会に提出・公表することとされました。

下呂市教育委員会では毎年、「学校教育」、「社会教育」の各分野における方針と重点を定め、各種施策に取り組んでいるところです。

平成27年11月

下呂市教育委員会

平成26年度「学校教育の方針と重点」についての点検・評価

(1) 下呂市小・中学校教育指導の方針と重点についての内部評価

(方針)

- ◇ 児童生徒の個性を生かし、一人一人に「生きる力」をはぐくむ教育を推進する
- ◇ 学校の教育目標の具現に徹し、地域に信頼される学校経営を推進する

《魅力ある学校づくりのための設定指標》

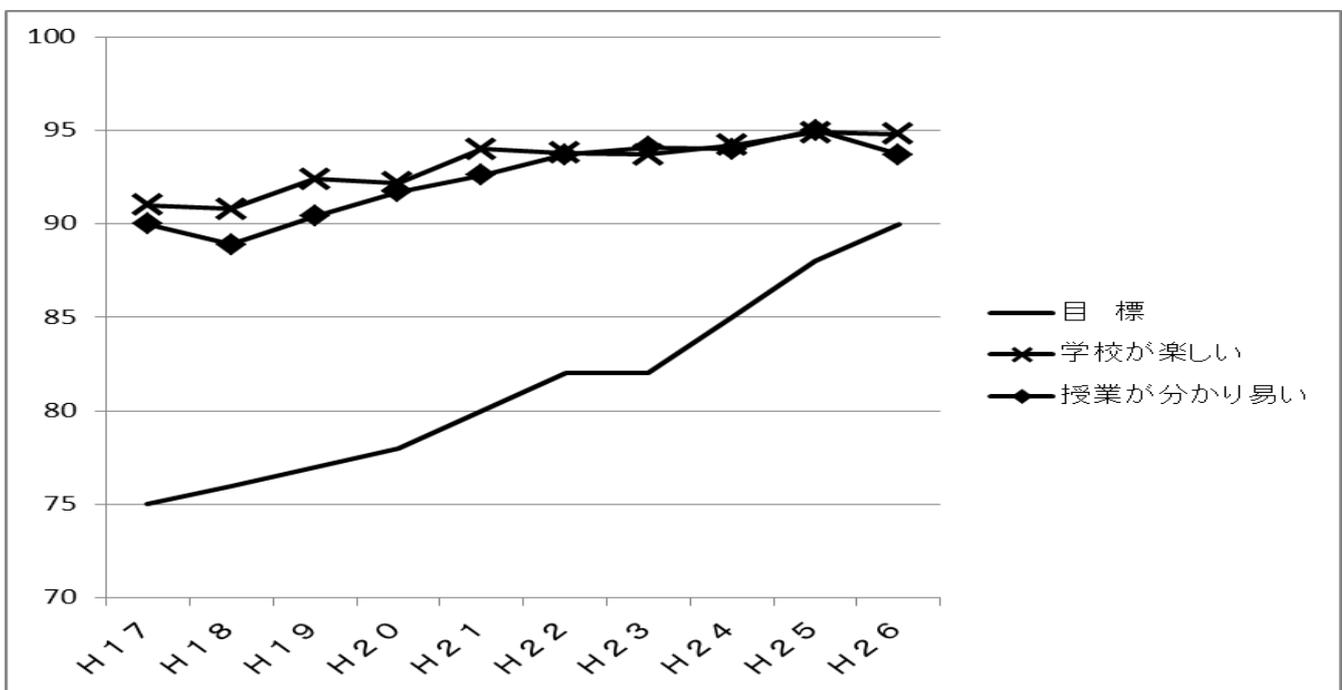
- ◇ 「学校が楽しいと感じる児童生徒の割合」を90%以上にする。(前年度88%)
 - ◇ 「授業の内容が分かり易いと答える児童生徒の割合」を90%以上にする。(前年度88%)
- ※「あてはまらない」「どちらかというにあてはまらない」等と回答した児童生徒に目を向けた指導や支援を充実させる。

【指標】 学校が楽しいと感じる児童生徒の割合

区分	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
目標	75.0	76.0	77.0	78.0	80.0	82.0	82.0	85.0	88.0	90.0
実績	91.0	90.8	92.4	92.2	94.0	93.8	93.7	94.2	94.9	94.8

【指標】 授業の内容が「分かり易い」と答える児童生徒の割合

区分	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
目標	75.0	76.0	77.0	78.0	80.0	82.0	82.0	85.0	88.0	90.0
実績	90.0	88.9	90.4	91.7	92.6	93.7	94.1	94.0	95.0	93.7



(総評)

各学校においては、心豊かでたくましく生きる児童生徒の育成を目指し、家庭・地域と一体となって学校経営に取り組んだ。管理職の指導のもと、児童生徒の個性を生かし、「確かな学力」、「豊かな心」、「健康な身体」を育む、調和のとれた教育の充実を図れるよう、学校を支援した。

市教委と学校との連携による学校教育の推進 ・ 市教委訪問における指導助言 ・ 財政支援

学校経営の評価をより客観的に見ていこうと、「魅力ある学校づくりのための設定指標」として具体的な数値目標を設定してから10年目になる。平成17年度、75%の達成目標も掲げてから、平成26年度には90%を掲げるに至った。この間、各学校の評価は年々満足群が増加してきており、現在は9割以上の児童生徒が学校生活への満足感、授業への充実感を得ていると答えており、豊かな学校教育活動が展開されているものと捉えている。

しかし、この数値に満足することなく、「学校が楽しい」「授業の内容が分かり易い」と答えていない、約1割の児童生徒に焦点をあて、一人一人のお子さんを気にかけて指導や支援の充実を図るよう各学校には指導しているところである。各学校においては、「あまり楽しくない」「あまりよくわからない」と答えている個々の児童生徒を全職員が把握し、日々指導にあたっている。

また、この10年間には、各種研究指定を受け多くの成果を残している学校、各種研究部会、教育研究所嘱託研究員会がある。これらの貴重な成果をぜひ市内全小中学校で共有し(下呂市は一つ)、指導改善に努め、市内全小中学校の児童生徒が「学校へ来るのが楽しい」といえる魅力ある学校づくり(いじめ・不登校や問題行動に対する未然防止)、「授業の内容が分かり易い」といえるよう一人一人に確かな学力を育成する指導の充実、「危機管理対応マニュアル」等の整備による安全・安心な学校づくり、特別支援教育の校内体制の一層の充実と、自立し社会参加できる力を身につけさせる支援、を進めることが大切であると考える。

【参考：過去10年間の研究指定】

- ・外国語活動(竹原小・竹原中)
- ・食育(湯屋小、小坂小、小坂中)
- ・幼児教育、保小連携(馬瀬小)
- ・魅力ある学校づくり(萩原小、萩原南中)
- ・人権教育(下呂小)
- ・理科教育(東第一小)
- ・居場所と絆づくり(不登校未然防止)(金山中)
- ・学力向上徹底プラン
- 「小学校からの教科専門性向上新システム」開発事業(萩原小、萩原南中)
- ☆確かな学力をつけるための教科指導のあり方(下呂市教育研究所嘱託研究員会)

◇「確かな学力」の定着を図る指導の充実

○教科指導においては、CRT調査、岐阜県学習状況調査、全国学力学習状況調査等の結果の把握・分析から指導改善の取り組みを確かなものにするよう見直しを図った。具体的には岐阜県教育委員会が作成した分析ソフトをもとに、自校の学力向上のこれまでの取り組みの「成果と課題とその要因」について明らかにし、それをもとに全校で共通して取り組む指導改善の具体的な方策を具体的な数値目標を加味しながら設定し、年間を通して意図的計画的に取り組めるよう「指導改善プラン」を作成し取り組んできた。また、昨年度に引き続き算数・数学、英語を中心に少人数指導の充実を図り、個の学習状況に応じたきめ細かな指導を行った。

- ・全国学力学習状況調査の結果分析と「指導改善プラン」の作成
- ・岐阜県学習状況調査やCRT調査をもとにした個々の児童生徒の実態把握
- ・授業の終末における、評価問題や補充問題の確実な実施と確かな学力の定着
- ・少人数指導の実施

少人数指導加配配置校：萩原小、下呂小、竹原小、萩原南中、小坂中、下呂中、竹原中、金山中
(少人数指導常勤講師：7名 少人数指導非常勤講師：4名)

- ・複式学級における教科担任、中学校の免許外指導解消による授業の充実
(小学校教科担任4名、中学校免許外指導解消5名)
- ・パソコンや具体物を活用した授業
- ・下呂市嘱託研究員会作成リーフレット「確かな学力をつけるための授業をめざして」の活用

○発達段階に応じた「聞く・話す・書く・読む」を中心とした基本的な学び方づくりに力を入れ、学ぶ意欲の高い学習集団の育成に努めた。

- ・市内全小中学校が学習の基本的な学び方づくりに取り組み、基本的な学習姿勢が定着している。5つの地域毎に小中学校が連携をして、発達段階に応じた「話し方、聞き方」「家庭学習の取り組み方」等の学び方の段階を明確にし、学習姿勢の定着を図っている。小中学校が連携をして取り組んでいることで、小学校卒業時や中学校卒業時の児童生徒の姿が明確になり、義務教育9年間を見通した学習習慣づくりが行われている。
- ・特に、萩原小学校と萩原南中学校が平成26年度～27年度の2年間、岐阜県教育委員会指定、「小学校からの教科専門性向上新システム」開発事業に取り組んだ。小中学校の相互乗り入れ授業の実施や、両校連携した9年間の系統性と一貫性を大切に授業づくりに取り組んでいる。また、市内には独自に小中乗り入れの授業を実施しているところもあり、一層の小中連携がはかれるようになってきている。

○進路指導においては、計画的に体験活動を位置づけ、望ましい勤労観や職業観が身につくよう指導を工夫している。特に、中学校の職場体験学習では、一人一事業所において体験することにより、自己の能力・適性を理解し、将来の夢や希望の実現に向けて主体的に進路選択できるよう指導・援助した。

- ・全中学校において、職場体験学習を実施した。二日から三日間、主に中学2年生、約280名が、のべ230ヶ所を超える事業所でお世話になった。自分が住む地域の職場で実際に勤労体験をすることは、働くことの値打ちや喜びを実感するとともに、地域の方々との触れ合いや郷土の良さを知る絶好の機会となっている。望ましい勤労観や職業観が身につくよう地域の事業所の協力をいただきながら、体験活動を行っている。

○特別支援教育においては、全教職員が一人一人の児童生徒の教育的ニーズを正しく理解し、一人一人の指導の方向性を示し、卒業時に付けたい力や卒業後の進路を見通した「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」の充実に努め全校体制で指導してきた。平成26年度より「障がい児就学指導委員会」を「障がい児教育支援委員会」と改め、就学先の決定のみならず継続的な実態把握と指導支援をより充実させた。また、学業支援員（特別支援教育）の配置により、特別な支援を要する児童生徒を担当する教員の指導に対して支援を図った。

- ・学校においては、特に保護者と担任とが密接に連携をとり、児童生徒の実態に応じて学習支援や生活支援を行っている。また、関係機関と連携したり客観テストを活用したりして本人の特性、理解度等に応じた指導を、全校体制で行っている。
- ・特別支援学級(知的学級、自閉情緒学級、肢体不自由学級、難聴学級)：9小学校16学級、6中学校10学級設置。言語通級指導教室：2小学校2学級
LD/ADHD等通級指導教室：4小学校4学級、1中学校1学級
- ・新規特別支援学級不認可の学校に県費適応支援非常勤講師3名を配置いただいている。
- ・市費学業支援員を配置し集団の中で個別の指導を必要とする児童生徒に対応をしている。特別支援教育担当学業支援員23名・不登校対策担当学業支援員7名配置。
(不登校対策7名の内1名は、下呂市適応指導教室「フリースペースふらっと」教育相談員)

◇ 豊かな心と健康な体の育成

○道徳教育においては、心に響く道徳の時間の一層の充実を図るとともに、地域や学校の特色を生かした豊かな体験活動を通して、児童生徒の道徳性を高めるよう努めた。

- ・週35時間の道徳の時間を要とし、日常生活や行事などに関連づけながら全教育活動を通して、道徳教育を推進している。特に「自己を見つめる力」「他を思いやる心」「郷土を愛する心」の育成を重点にして、児童生徒の心に響く道徳授業の実現に努めている。
- ・飛騨教育事務所の道徳教育計画訪問を機会に、それぞれの中学校区で子どもたちの実態を交流し合いながら、学校間の授業公開を行い、道徳の時間の充実に努めた。（平成26年度道徳教育計画訪問実施校：宮田小、小坂小、竹原小、金山小、下呂中、馬瀬中）
- ・各教科と道徳の授業の関連を明確にした道徳教育の全体計画別葉の作成を行った。

○特別活動においては、諸問題を解決する活動を通して、児童生徒による自発的、自治的な活動を展開し、一人一人の児童生徒が自分に自信をもち、自分の良さや可能性を発揮してよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てることをねらいとしている。集団の一員としての自覚を深めることにより、一人一人に存在感があり、心が通い合う学級づくりに努めた。

- ・学級を集団生活の母体とし、学校生活の向上や望ましい集団生活の構築のために、学級活動の充実に図った。また、児童会・生徒会活動による挨拶運動、清掃活動等の自治的活動を展開し、学校生活の向上をめざした。
- ・上記実践の積み重ねの中で、どの子にも感じてほしい「学校に来るのが楽しい」という居心地の良さや所属感を観点にした評価に努めた。このことが不登校やいじめの未然防止につながると考える。

○健康教育においては、児童生徒の健康状況を的確に把握するように努め、自主的に健康管理できる能力や態度が育つよう、指導の工夫改善を図った。また、近年大きな課題となっている、食物アレルギーへの対応についても、管理職、養護教諭を中心に研修に努め、全教職員の共通理解を促した。

- ・各学校においては、毎朝、児童生徒の健康観察を実施している。また、保護者との連携を密にし、児童生徒の的確な健康状態の把握に努めている。
- ・昨今増加してきているアナフィラキシーショック等についての対応について、職員研修も進めた。
市校長会、教頭会での周知。「食物アレルギーによるアナフィラキシーへの対応」に関する保健安全講習会に全保健主事、養護教諭参加。学校教育課にてエビペントレーナー及び研修資料を準備し、各校の研修に貸し出し(全小中学校で研修会をもっていただくよう依頼)
- ・「命を守る訓練」の実施。今までの固定された1単位時間に実施する避難訓練から、いつでも、どこでも、「自分の命は自分で守る」力を育成するための訓練の実施。具体的な方途として数分でも実施できる訓練の導入(シェイクアウト訓練等)その他安全や危機管理意識の向上を目指し、学級活動・全校集会・交通安全教室などの学校行事を通して具体的な指導を行った。

○いじめ、不登校、その他の問題行動に対する対応

下呂市教育委員会は、次のような基本姿勢をもって指導助言にあたっている。

※「子どもは間違い(失敗)を犯しながら成長していく存在である。」

※「問題があることが問題ではなく、どう対応(関わる)するかが問題である。」

※ 存在感、自己有能感、自己有用感、→ 自己肯定感を高めることを大切にする。

※「見えている事象(サイン)が見えない者は、見づらいいじめ等の事象をキャッチすることはむずかしい。」日々の全ての教育活動で『気にかける(まなざし、声かけ、ふれあい)指導』を大切にする！

※ 保護者、地域との理解と協力 (情報共有)

管理職のリーダーシップのもと、教職員が上記基本姿勢を大切に信頼と愛情に基づく適切な対応ができるよう、生徒指導主事・教育相談主任等を中心とした組織的な生徒指導・教育相談の充実を図った。特に、いじめ、不登校、問題行動対応については、全職員が共通理解のもとに組織的に対応し、未然防止・早期指導の徹底に努めた。また、教育相談員の配置により、不登校・不登校傾向の児童生徒への個別的な支援に努めた。

【いじめの実態】

- ・いじめの未然防止→お互いを思いやり、仲間を大切にする指導の充実といじめは人として絶対許されないという意識の高揚を図っている。（仲間と力を合わせやり遂げる活動の重視等）
- ・心理検査や生活アンケート、精神健康度調査等を実施し早期発見・早期対応に努めている。
- ・教育委員会は、各学校より随時、また毎月事案の報告を受け、早期対応の指導助言に努めている。報告書には、「解決済み」「継続観察中」の項目を追加し、引き続き児童生徒の指導にあたっている。
- ・スクール相談員、スクールカウンセラー等の専門家との連携により心のケアに努めている。

【下呂市小中学校のいじめの認知件数】

◇22年度：15件 23年度：24件 24年度：30件 25年度：18件 26年度：19件

26年度は、小学校5件(悪口3件、嫌がらせ2件、仲間はずれ1件 ※重複あり)、中学校は14件(嫌がらせ7件、暴力4件、暴言4件、悪口1件、あだ名2件、無視1件、仲間はずれ1件、おごりの強要1件 ※重複あり)

【22年度1000人あたりの認知件数】 全国：5.5人 岐阜県：15.2人 下呂市：5.1人

【23年度1000人あたりの認知件数】 全国：5.0人 岐阜県：12.2人 下呂市：8.3人

【24年度1000人あたりの認知件数】 全国：14.3人 岐阜県：15.3人 下呂市：10.7人

【25年度1000人あたりの認知件数】 全国：13.4人 岐阜県：12.9人 下呂市：6.8人

【26年度1000人あたりの認知件数】 全国：17.3人 岐阜県：13.9人 下呂市：7.4人

- ・いじめ防止対策推進法(平成25年法律第71号)に基づき、全小中学校において、「いじめ防止基本方針」を策定し、いじめ未然防止対策委員会を設置している。いじめの未然防止、早期発見、早期対応の取り組み、問題発生時の対応について共通理解し組織的に取り組んでいる。

☆今後も次の点について各学校へ周知し児童生徒の指導にあたる。

- 全職員が一丸となって全力で児童生徒の命を守りきる。
- 「学校のどの先生でもいいから、話せる先生に相談してください。」というメッセージを送り続ける。
- 「心が苦しいときこそ、一人で何とかしようとしなくて、周りの人に助けてもらいましょう。あなたの周りには、あなたの苦しさをわかってくれて、支えてくれる人や場所が、きっとある。」という内容を児童生徒に伝え続ける。
- 下呂市教育委員会教育相談電話はもちろん「子どもSOS24」等の相談窓口を紹介し、困った時や心が苦しいときは、いつでも相談ができる体制が整っていることを伝える。

【不登校の実態】

- ・各小中学校においては、「新たな不登校を生み出さない」として一人一人が集団の中で良さや弱さを認め合い、安心して生活できる居心地のよい学校づくりに努めている。
- ・学業支援員（不登校対策・教育相談）を、小中合わせて7名（事務局に1人）配置している。

(1000人あたりの不登校児童生徒数)

	小 学 校				中 学 校			
	全国	岐阜県	下呂市	(人数)	全国	岐阜県	下呂市	(人数)
平成16年度	3.2	3.7	3.5	8	27.3	27.5	10.3	12
平成17年度	3.2	3.6	3.1	7	27.5	28.1	14.1	16
平成18年度	3.3	3.9	0.9	2	28.6	29.8	16.0	18
平成19年度	3.4	3.9	1.5	3	29.1	32.9	19.6	23
平成20年度	3.2	4.1	1.0	2	28.9	33.9	23.6	27
平成21年度	3.2	4.2	1.5	3	27.7	29.7	14.5	16
平成22年度	3.2	4.0	1.1	2	27.3	27.7	10.3	11
平成23年度	3.3	4.2	0.6	1	26.4	27.1	12.2	13
平成24年度	3.1	4.1	1.7	3	25.6	27.1	18.3	19
平成25年度	3.6	4.7	1.2	2	26.9	29.0	18.8	18
平成26年度	3.9	5.0	1.2	2	27.6	31.7	32.3	30

(全国は、国公私データの。岐阜県は公立学校のみデータの)

平成26年度は、不登校が中学校で激増した。中学校30件の内訳を見てみると。

- ・前年度から引き続きの不登校数は、12人

(小学校の時から継続3人、中1から継続5人、中2から継続4人)

- ・本年度新たに不登校になった者は、18人（1年生6人、2年生9人、3年生3人）

※上記より、新たに不登校になった者が例年より多かった(H25は6人)。これは、特定の学校に偏っているわけでもなく、どの学校にも存在している。また、態様は様々である。

(不登校のまま、転校してきた生徒2人。病気の診断(起立性調整障害：低血圧、頭痛のため朝起きられない)あり2名。)

※30人の生徒について、いつからその兆候が見られたかを見てみると、

小学校の時4人、中1の時14人、中2の時10人、中3の時2人

「中1ギャップ」と思われる者がやはり多いが、中2から不登校になった生徒も10人と多い数を示している。一概に中1ギャップの問題ばかりとは考えにくい。

中1の時に不登校の兆候が見られる生徒は多いが、市内の各中学校区では、小中連携がなされていることで「中1ギャップ」の解消につながっていることは確かであると考えている。

(小規模小学校同士の交流、小中の兼務職員の配置、丁寧な中学校説明会の実施等)

※人間関係を柔軟に創り上げる力、困難に立ち向かう力、環境の変化に順応する力の弱さが主な要因として考えられる。

※不登校から復帰した生徒5人。(昨年度の不登校欠席日数→本年度の不登校欠席日数)

①27日→0日、②28日→0日、③120日→17日、④17日→1日、⑤18日→0日

➡ ☆小学校から「やりきらせる」機会の保障と見届け、価値付け、賞賛、自信づくりの指導の充実

☆人と関わりながら、失敗を繰り返しながら、うまくいかないことを繰り返しながら、の体験を多くもたせる

☆苦しみを理解し、温かく迎えていただく家庭の協力を大切にしていきたい。

◇ 特色ある教育活動の推進

- 小中学校にALT 6名を配置し、ALTとの連携による英語学習や平成23年度より導入された小学校5・6年生における外国語活動において、外国語への関心・意欲やコミュニケーション能力の向上を図った。また、小学校では、1～4年生においてもALTを活用して英語のコミュニケーション活動を実施している。
- コンピュータの積極的な活用を推進し、情報を主体的に選択・活用できる能力を養うとともに、情報モラルの向上に努めた。

- ・市校長会と市PTA連合会が連携し、「下呂市小中学校児童生徒の携帯電話・スマートホン・通信機能付きゲーム機等の使用に向けての取組み」を作成し各家庭への啓発を図った。
 - ※必要のない携帯電話・スマートホン・通信機能付きゲーム等は持たせないようにしましょう。
 - ※契約前に親子で「我が家のルール」を決め、必ずフィルタリングをしましょう。
 - ※使用は午後9:00までとし、携帯電話・スマートホン・通信機能付きゲーム等は親が預かるようにしましょう。
 - ※保護者もスマートホン等については、時間、場所等の節度を考えた使用を心がけましょう。
- ・各学校において情報教育の年間計画に沿って児童生徒への指導に取り組んでいる。また、近年課題となっている「インターネット、メール・SNS等の活用」について、被害者のみならず加害者となる危険性から児童生徒を守るべく、児童生徒はもちろん保護者に対しても啓発活動(研修)を行った。
- ・研修に関しては、校内指導はもちろん外部機関の協力もいただき、講師派遣依頼に対応した。
<H26年度情報モラル講座>
 - ※外部機関より講師派遣：小学校6校、中学校4校に派遣（児童生徒並びに保護者対象）
 - ※その他、各小中学校においても外部講師を依頼した指導事例あり。

- 図書整理員の配置により日常的な図書館利用を推進し、読書に親しむ機会を増やすとともに、読書や読み聞かせ等の活動を積極的に行った。

- ・平成26年度は5名の図書整理員を配置した。
- ・飛騨地区学校図書館教育推進事業を積極的に活用し(毎年順に実践校を指定)、学校図書館の整備と活用を促進している。平成26年度は馬瀬小学校が総合優秀賞、菅田小学校が優秀賞、小坂小学校・小坂中学校・金山中学校が奨励賞を受賞した。
- ・ボランティアによる読み聞かせ活動等が各学校において活発に行われている。

- 森林教室等、環境保全について主体的に考える体験的な活動を支援し、環境問題の意識化を図った。

- ・小学校では、外部の講師を招き森林教室を行った。また、位山自然の家において宿泊し、森林体験学習を行い、森林の保全や自然を大切にすることを育てる学習を行った。
森林教室 小学校9校10学級が実施 位山自然の家での体験学習 小学校11校が実施

◇ 地域に信頼される学校づくり

- 管理職は、その指導性を発揮し、自己啓発面談等を通して全職員の目的意識を高めるとともに、学校や地域の特色を生かした創意ある教育活動の推進に努めた。

- ・現在、各学校は年間3回程度の校長と職員の面談機会(自己啓発面談)をもち、教科指導や生活指導における諸問題や個々の対処について、具体的な目標や指導の手立てを明らかにし指導をしている。
- ・各学校とも、児童・保護者や地域の方からのアンケート等(学校評価)を実施し、学校評議員の方からもご意見をいただきながら、教育指導や教育実践について改善を図っている。
- ・学校行事や学年行事等において、地域の特色を生かした教育を実践し、郷土に誇りと愛着を持つ心を培っている。

○下呂市教育研究所による研修事業を工夫し、教職員の指導力を高める支援を図った。

- ・教科指導関係、情報教育関係、法令関係、特別支援教育関係など教職員のニーズを考慮し、例年数講座を設定して、研修を深めている。

平成26年度	夏季の実践講座	8講座開設	296名参加
	秋・冬季の実践講座	5講座開設	117名参加

(夏季の講座は、全員1回は受講するよう啓発している)

○児童生徒の安全を第一に考え、危機管理マニュアルや気象警報等発表時の対応について徹底を図った。

- ・下呂市防災訓練へ参加した。
- ・災害時に備え、児童生徒の保護者への受け渡し訓練を行った。
- ・シェークアウト訓練の実施。
- ・気象警報発表時の対応について確認した。「早い段階で判断する」「児童生徒のみでは下校させない」「定期的に受け渡し等の訓練を実施する」を基本とし、児童生徒の安全を第一に考えた対応を重視した。

○下呂市スクールサポーター事業の継続・強化を図り、学校内外における不審者等に対する児童生徒の安全確保に努め、危機管理体制の充実を図った。

- ・警察出身のスクールガードリーダー2名をお願いし、支部ごとに校長会代表者に年間2回ほど集まっていたいただき、情報交換やリーダーからの助言を受け、各学校へ伝達して児童生徒の安全に寄与している。
- ・各支部では、警察官やスクールガードリーダーの講演などを計画し、スクールサポーターの活動を推進している。
- ・スクールサポーターを募集し、児童生徒の登下校等に関する見守り活動をお願いしている。

○下呂市教育研究所ホームページの充実を図り、各学校の教育方針や活動について情報発信するとともに、自己評価や学校関係者評価(外部評価)等を学校経営の改善に生かし、開かれた学校づくりを推進した。

- ・下呂市教育研究所ホームページには、各学校の活動について学校だよりや写真を掲載して情報発信を継続して行ってきた。情報内容も年々充実し、年間のアクセスは、約10万件に近い。
- ・各学校では、児童生徒、教職員、保護者、学校評議員等へのアンケート調査により教育活動について定期的に評価し、成果・課題を明確にして学校経営に生かしている。また、評価結果については、保護者や地域に公開し、開かれた学校経営を進めている。

○体罰の禁止及び児童生徒理解に基づく指導の徹底について

下呂市教育委員会としては、問題行動等が起きたときには十分な教育的配慮のもと、毅然とした対応はとりつつも、「体罰」は決して許されないことであり、決してあってはならないことであるととらえている。体罰では、児童生徒の正常な倫理観を養うことはできない。むしろ、力による問題解決への志向を助長させ、ひいてはいじめや暴力行為等を是認させる土壌を生む恐れもある。体罰は指導や教育ではなく暴力行為であり、いかなる場面においても許されるものではないことを各学校に指導している。

全教職員に研修資料「不祥事根絶のために～師であることを胸に刻んで～」 「体罰を根絶する学校」(H24年度配布)を活用し、各学校において職員研修を実施した。また、職員一人一人が体罰を含む不祥事根絶に向けて、「チェックシート」(県教委作成)により自己点検、各校の重点課題を確認しあい、不祥事根絶に向かって取り組んでいる。

また、毎月「不祥事根絶重点項目」を作成し、意図的な指導にあたってきた。

平成26年度の市教委への報告は0件。

また、体罰のみならず部活動における指導のあり方について、「下呂市中学校部活動ガイドライン」を平成25年度中に作成し、平成26年度4月より各中学校に配布し、指導の徹底を図っている。

◇ 教育環境の整備と充実

○育英資金活用事業や要保護・準要保護就学援助事業により、経済的・身体的な理由により就学、進学が困難な児童生徒に対する就学支援の充実を図った。

・平成26年度 小学生99名、中学生84名

○改築、修繕関係

①萩原小学校のプール改修工事を実施した。

②金山小学校校舎の屋上防水工事を実施した。

③小学校7校の屋内運動場について非構造部材耐震調査を実施した。また、吊上げ照明の改修を行った。

④萩原南中学校校舎の屋上防水工事を実施した。

⑤中学校7校について非構造部材耐震調査を実施した。

⑥各小中学校の施設維持修繕に関して、優先度を考慮しながら修繕対応を進めた。

(3) 【各学校における学校関係者評価委員会の意見（平成26年度抜粋）】

①学校運営について

- 「学校へ行くのが楽しい」「授業が分かりやすい」と親子とも一致し、保護者の意見に「安心して任せられてありがたい」と述べられており、理想的な学校だと感じる。
 - 先生方が、こどもに真剣に向かい合ってくださいるのでありがたいと思っています。
 - いつも、子ども一人一人の様子をよく見ていただき、場面、場面で適切な声をかけていただき感謝しています。
- ※先生方を見ると、休みの日は部活動の指導もあり、本当に忙しそうだ。もっと先生方にゆとりがあるとよい。

②学習指導について

- 毎日、「今日は何々について学んだよ」と、新しく学んだことを楽しそうに家で教えてくれます。勉強が楽しいみたいでありがたいです。
 - 算数の少人数教室へ行って自信をつける方法をとっていただけること本当にありがたく思っています。
 - 宿題を毎日丁寧に見てくださり、間違いにも気づけてありがたいです。
 - 授業参観をさせていただいた時、挙手を積極的にして、意欲的に学んでいる姿が素晴らしかった。
 - 特別支援学級に在籍させていただいて、本当にうちの子に応じた指導をしていただき、少しずつできることも増えてきてありがたく思っています。
- ※「分からないことが分からない」と気楽に言えて、そのことについて、みんなで学び合えるような授業に創って行って欲しい。

③生活指導について

- 学校を訪問した時、先生方や子ども達が元気にあいさつをしてくれるので気持ちがよい。
 - 子どもに何かあった時の対応をすぐしてくださりありがたく思っています。子どもたちの相談にも乗っていただいております、安心して生活できています。学校生活を楽しんでいるようです。
 - 掃除の時間に学校へ行ったところ、子ども達が私語なく黙々と掃除をし、丁寧に自分で気づいたところを見つけきれいにしている姿に感動しました。子ども達に素晴らしい指導をしていただき、本当にうれしく思いました。
- ※ゲームや携帯電話については、家庭でしっかりと約束を決め、子ども達の使用に関して見ていくことが大切ではないか。

④家庭・地域との連携

- 先生方も一緒にイベントや行事に参加してくださり、先生方の温かさがつたわってきてとてもうれしくなりました。
- 家で、学校であったことを楽しそうに話してくれます。自分でいろいろなことができるようになり、手伝いもしてくれます。ずいぶん成長したなと思います。ありがとうございます。
- 横断歩道を渡るとき、止まっていたいただいた車にお辞儀をする上級生の姿を見て、下級生が学んでおり、いい伝統になっている。

平成 26 年度「社会教育の方針と重点」についての点検・評価

下呂市教育委員会は、平成 26 年 5 月 23 日付け、議題第 8 号下呂市生涯学習の基本方針に関する諮問及び、議題第 9 号下呂市生涯スポーツの方針に関する諮問を行い、それを受け下呂市社会教育委員の会、下呂市スポーツ推進審議会で協議がなされ、平成 27 年 5 月 29 日、その答申を受け「下呂市生涯学習の基本方針」を定めた。

方針では、下呂市の新たな視点で生涯学習時代にふさわしい創造と感動と交流を求めて、地域風土に沿った生涯学習社会の構築を目指すとしている。生涯学習は人づくりにあり、地域の主人公である市民は、学んだ英知を豊かに生きる原動力とし、さらに地域に還元することにより、市民主体によるまちづくりが推進されることを目指している。

平成 26 年度、下呂市教育委員会では、生涯学習の基本方針策定の審議の過程において、平成 26 年度社会教育の方針と重点を尊重し、社会教育関連事業を実施した。

(方 針)

◇『豊かな市民生活をめざす社会教育の推進』を目標として、その具現化のため、以下の 4 つの重点を柱として事業を推進した。

(重 点)

- ◇ 地域ぐるみでの、次代を担う青少年の健全な育成【育 む】
- ◇ 市民に活力と潤いをもたらす文化の振興【親しむ】
- ◇ 市民の視野を広げ、生きがいを深める生涯学習の推進【学 ぶ】
- ◇ だれもが楽しく気軽にスポーツに親しめる環境づくり【楽しむ】

(力 点)

社会教育は、学校教育の教育課程として行われる教育活動を除く、青少年・成人に対する生涯学習活動を積極的に支援する責務があります。生涯学習課が所管する事業、施設は広範囲におよぶため、それらを有効に活用して市民のそれぞれのライフステージにおける役割を明確にして、事業の実施にあたらなければなりません。課員はこのことを自覚し、以下に述べるそれぞれの事業を実施しました。

◇地域ぐるみでの、次代を担う青少年の健全な育成【育 む】

(1) 家庭教育機能の充実

- ① 妊娠期からの親としての学習機会の充実を図る。
- ② 保護者会や P T A が、主体性をもった家庭教育事業を推進する。
- ③ 家庭教育支援のための情報を市民に発信する。
- ④ 家庭教育支援民間団体とのネットワークを構築し、民間が主体になった家庭教育推進を図る。
- ⑤ 行政における子育て関係諸機関との連携を強化する。特に家庭教育における諸問題解決のための相談体制の整備を図る。

・家庭教育における子育て支援として学習機会の充実を図るため、子育て講演会、乳幼児期・幼児期並びに小中学校保護者対象の親まなび講座、命のふれあい講座、を開催すると共に、家庭教育支援チームによる子育て支援を行った。

事業名	開催場所	回数	延べ参加者数(人)
親まなび講座	星雲会館・下呂市民会館他	5	100
親まなび講座支援事業	小坂中学校・東第一小学校 馬瀬小学校・上原小学校	4	267
企業内家庭教育研修会	タイム技研下呂、(株)金子工業	2	320
計		11	687

○下呂市家庭教育支援チーム

活動状況 支援チームスタッフ 11人、開催24回、延べ参加者数807人

活動場所 小坂地域3回(小坂健康ふれあいセンター・山村開発センター ほか)、
萩原地域8回(あさんず会館)、馬瀬地域1回(馬瀬中央公民館)、
下呂地域4回(竹原公民館)、金山地域8回(金山市民会館)

○命のふれあい講座

市内7中学校29回 参加人員990人

(2) 地域活動の促進と地域社会における教育力の向上

- ①青少年の諸活動を活性化させるとともに、リーダーの育成を図る。(ジュニア・シニアリーダーの育成、リーダー間の交流等)
- ②地域の関係諸団体と連携して、主体的な活動への支援と指導者の育成を図る。
- ③休日を活用した、青少年の奉仕・体験活動・地域行事等の機会づくりや参加の充実を図る。
- ④地域で青少年を見守り、健全に育てていこうとする気運を高める。(地域の教育力の向上、地域の方々との連携)

- ・下呂市青少年育成市民会議を開催し、大会決議の採択、少年の主張の発表、青少年育成顕彰(わかあゆ賞)表彰式を行い、青少年の奉仕・体験活動・地域行事等への参加の機会づくりの充実を図った。また、秋には青少年の国際的視野並びに国際感覚の醸成を目的とした、英語スピーチコンテストを実施した。
- ・ジュニアリーダーや指導者、学校教職員及び地域の関係諸団体と連携・協力して、各地域でのキャンプ体験活動、市内小中学生が野外活動のもとで、学年が違う仲間たちと共同生活や未体験活動を行う中で、忍耐力や自立心・協調性などの心の豊かさを身につけることを目的とした下呂市交流キャンプ、親子わくわく科学体験教室(夏季の部・冬季の部)を実施した。

○下呂市青少年育成推進員の活動状況

- ・青少年育成の実践活動への指導・助言

事業名	内容
H26. 5. 21青少年育成市民会議理事会	市民会議規約・年間事業計画・わかあゆ賞被表彰者の審査等
H26. 6. 22第9回青少年育成市民会議 (参加者200名) 星雲会館	<ul style="list-style-type: none"> ・下呂市青少年育成顕彰「わかあゆ賞」授与式 青少年の文化、スポーツ、奉仕活動等の優れた活動を顕彰(受賞者57人3団体) ・少年の主張下呂市大会 市内7中学校の代表者が発表を行い、審査の結果上位2名

	を飛騨地区選考会へ推薦
H26. 10. 3 第10回英語スピーチコンテスト (参加者140名)	国際化時代を迎えて英語力や自己表現力の向上を図るため実施。市内7中学校の代表者が環境や国際交流などをテーマにスピーチ。

- ・下呂市青少年推進員会議 3回 参加延べ人数 35人
 - ・市民会議開催行事(市民会議・英語スピーチコンテスト・成人式) 参加延べ人数 36名
 - ・県指導員連絡会議 2回
 - ・県民会議主催行事 1回 延べ参加人数 4人
- 青少年育成市民会議主催行事 理事会 27名(会長 岐阜県青少年育成推進指導員)

○親子わくわく科学体験事業

市内小中学校の理科担当教諭等で構成された「下呂サイエンスの会」への委託事業。学校や家庭では体験できない科学の実験を通じて、子どもたちが驚きや感動の体験を味わうとともに、親子のふれあいを深める機会をつくることを目的とした。

- ・夏季の部 H26. 8. 9 実施
保護者含め参加者 215人(内、参加児童 154人), ボランティア中学生 161人
- ・冬季の部 H26. 11. 22 実施
保護者含め参加者 304人(内、参加児童 212人), ボランティア中学生 92人
- ・特別編 移動天体観測
天候不良により中止 (H26. 11. 11)

○青少年各種団体補助

事業名	内容
青少年健全育成推進 会議補助金	中原校区教育モニター補助金 萩原の子はぐくみネットワーク補助金 竹原っ子会議 上原校区モニター協議会 下呂地区子育てネットワーク会議
子ども会等活動育成 補助金	市子ども会育成協議会 金山支部 下呂支部 萩原支部 馬瀬支部 小坂支部

- 各地域において成人式を開催し、地域で青少年を見守り、健全に育てていこうとする気運を高めた。
新成人 378人が出席した。

地域	期 日	場 所	参加人数(人)
萩原	平成27年1月10日(土)	星雲会館	106
馬瀬	平成27年1月10日(土)	馬瀬中央公民館	20
小坂	平成27年1月11日(日)	小坂山村開発センター	34
下呂	平成27年1月11日(日)	下呂交流会館	149
金山	平成27年1月10日(土)	金山市民会館	69
計			378

○下呂市中学生国際交流事業として、アメリカ合衆国姉妹都市であるアラスカ州ケチカン市とフロリダ州ペンサコーラ市への中学生派遣を実施。

ペンサコーラ市との交流

・中学生派遣

第22回ペンサコーラ派遣事業 平成27年3月24日～4月2日 23人（内引率3名）

・中学生受入

平成26年6月5日～6月15日 6人（内引率2名）

ケチカン市との交流

・中学生派遣

第28回ケチカン派遣事業 平成27年3月24日～4月5日 16人（内引率3名）

・中学生受入

第27回ケチカン訪問団 平成26年6月7日～6月21日 19人（内引率4名）

・日本語指導員派遣

1名：平成26年4月～平成26年6月（雇用は平成25年8月～平成26年7月）

1名：平成26年8月～平成27年3月（雇用は平成26年8月～平成27年7月）

・英会話指導員受入

1名：平成26年4月～平成26年6月

1名：平成26年9月～平成27年3月

○下呂市交流キャンプ開催

市内の小中学生が集い、野外活動を通じた青少年の健全育成を図ると共に、ジュニアリーダーの指導技術向上を目的としている。今年度は雨天のため山之口体育館にて日帰りレクリエーション会を実施した。

・実施日 平成26年8月9日（土）

・参加者 市内小中学生（4年生以上） 61人

◇市民に活力と潤いをもたらす文化の振興【親しむ】

(1) 文化・芸術活動の振興と文化財の保護・活用の推進

①文化・芸術関係団体の自主的な活動を支援する。

②市内の指定文化財や伝統芸能を保護し、普及・啓発を図る。

③市内の遺跡や史跡を保護し、普及・啓発を図る。

④博物館における歴史資料の保管保護体制の充実と、その公開を図る。

○文化・芸術活動の振興

・文化協会活動補助事業により文化・芸術関係団体の自主的な運営を促進し、市内各文化協会が一丸となり下呂市文化協会主催として下呂市文化祭を開催した。また、無形文化財及び無形民俗文化財の現地公開事業などにより地歌舞伎公演や第14回岐阜県獅子芝居公演への参加など、市民に優れた文化・芸術にふれる機会の提供や、発表の機会づくりなどの支援を行なった。

○指定文化財の保存

[文化財指定・登録の状況]

(単位：指定件数 H27. 3. 31 現在)

区分	種別	国	県	市	計
有形文化財	建造物	3	1	19	23
	絵画		2	32	34

	彫刻	1	7	70	78
	工芸品		3	57	60
	書跡		2	22	24
	典籍			8	8
	古文書		1	21	22
	考古資料			8	8
	歴史資料			20	20
無形文化財	無形文化財				
民俗文化財	有形民俗文化財	1	5	23	29
	無形民俗文化財	1		10	11
記念物	史跡		7	55	62
	名勝		2	4	6
	天然記念物	3	27	88	118
登録有形文化財(登録)	建造物	9	—	—	9
計		18	57	437	512
特別天然記念物		4			

○文化財保存・調査のための取り組み

- ・文化財保護巡視員の活動（巡視日数25日間）
- ・樹勢等専門家診断（1回）
- ・県重文禅昌寺蔵軸物保存管理現地指導
- ・県天然記念物保護対策現地指導
- ・国指定シダレグリ自生地の管理
- ・文化財関係の公的団体への負担金
- ・その他文化財保護に係る取り組み

○文化財普及・啓発のための取り組み

- ・愛護標柱等更新（6件）

○文化財現地公開事業に対する補助金

- ・国指定 田の神祭
- ・市指定（鳳凰座、白雲座、金蔵獅子）

○遺跡詳細分布地図作成事業（馬瀬地域）

- ・埋蔵文化財包蔵地及び遺跡地図編集支援業務委託

○市内遺跡における各種開発確認調査

- ・下切遺跡試掘確認調査支援業務
- ・桜洞神田遺跡試掘確認調査支援業務

○出土遺物整理作業・報告書作成事業

- ・桜洞城跡発掘調査報告書DTP編集委託
- ・桜洞城跡発掘調査報告書印刷

- ・萩原諏訪城跡発掘調査報告書印刷
- ・大林A遺跡発掘調査報告書印刷
- ・戦国城館の発掘調査発表要旨集印刷

○下呂ふるさと歴史記念館企画事業実績

- ・春の企画展
「町村合併－江戸時代から明治時代の資料に見る－」期間：5/31～7/13
- ・特別展示
「伊能忠敬下呂来訪 200 年展」（同実行委員会主催展示）
期間：6/13～6/22 会場：湯之島旧岐阜銀行建物
「伊能忠敬と測量調査」期間：6/28～7/21
- ・秋の企画展
「戦国城館の発掘調査－三木氏の城・金森氏の城－」期間：10/4～11/24
- ・埋蔵文化財製作体験学習（アクセサリー、縄文土器製作ほか）
年間体験者数 544 名（一般 459 名・市内学校 63 名・市外学校 22 名）

○博物館講座

- ・「ふるさと歴史講座」（生涯学習講座として開催）
開催日：6/6・13・20・27・7/3 受講者 13 名 会場：星雲会館
開催日：10/7・14・21 受講者 15 名 会場：金山公民館
- ・「古い道具を見てみよう」
開催日：5/10 受講者 5 名 会場：下呂ふるさと歴史記念館
- ・「博物館研究集会－三木氏と戦国飛騨南部の城－」
開催日：10/5 受講者 42 名 会場：竹原公民館
- ・「企画展開催記念講演会－城から探る飛騨の戦国時代－」
開催日：10/26 受講者 60 名 会場：諏訪集会場

○下呂ふるさと歴史記念館

下呂市の博物館・郷土館の中の中核館。市内の歴史資料を幅広く展示公開。

入館状況

開館日数 291 日

	26 年度(A)	25 年度(B)	比較(A/B)
入館者数	15,410	14,445	106.7%

○県指定文化財保護事業

- ・（美術工芸）禅昌寺蔵白隠筆絵画 2 幅保存修理事業
- ・（建造物）鳳凰座舞台自動火災報知機取替

○市指定文化財保護事業

- ・（建造物）禅昌寺山門他保存修理事業
- ・（天然記念物）庚申さまのイチョウ保護事業
- ・（天然記念物）浄福寺のしだれサクラ樹勢回復事業

【他館の入館者数の実績】

- ・小坂郷土館 285 人
- ・金山郷土館 61 人（依頼を受けて展示解説等を実施した人数）

- ・加藤素毛記念館 203人
- ・馬瀬歴史民俗資料館 なし（希望者のみ開館対応）

◇市民の視野を広げ、生きがいを深める生涯学習の推進【学 ぶ】

（1）生涯学習活動の推進

- ①地域ぐるみで行う公民館活動を支援し、公的施設等の有効な活用を図る。
- ②市民のニーズに応じた指導者の確保と、市民誰もが、いつでもどこでも学べる体制づくりの構築を図る。
- ③生涯学習に取り組む既存の団体やサークルの活動を支援する。
- ④短期留学・研修生の交換派遣や、国際交流機会の充実を図る。
- ⑤親しまれる図書館（室）づくりを図るために必要な機能整備と運用を図る。
- ⑥社会教育施設の健全な運営（公民館／市民会館など）

（2）人権教育の推進

- ① 学校、行政諸機関、各種団体等との連携による人権学習の機会を充実し、住民の人権感覚の育成を図る。
- ② 人権教育や人権啓発のための学習資料を充実し、啓発活動を推進する。

○公民館における生涯学習講座を充実し、市民のニーズに応じた指導者の確保と、市民の誰もが、いつでもどこでも学べる体制づくりを目指した。

講座の実施状況

地 域	内 容		講座 募集数	講座 実施数	参加者 (人)	延べ 参加者 (人)
萩 原	前期	シェイプアップ講座 ほか	12	10	130	370
	後期	懐かしの昭和歌謡講座 ほか	5	5	44	172
下 呂	前期	お灸指圧講座 ほか	8	7	73	251
	後期	はじめての社交ダンス ほか	5	5	56	294
金 山	前期	似顔絵講座 ほか	8	6	69	197
	後期	ふるさとの歴史講座 ほか	4	4	46	124
小 坂	前期	ヨガ講座 ほか	4	3	35	77
	後期	ストレッチ体操教室 ほか	5	5	45	88
馬 瀬	前期	ゆる体操教室 ほか	5	3	23	52
	後期	やさしい手話教室	4	2	7	12
合 計	前 期		37	29	330	947
	後 期		23	21	198	690

○下呂市社会教育関係団体登録制度（使用料半額減免）により、公民館等を主な活動拠点とする団体の把握、及び団体への情報提供・団体同士の連携・仲間づくりを支援し、市民による公民館活動の充実を図った。（登録団体数 116団体 前年度対比 3団体増）

○「下呂市生涯学習のまちづくり人材バンク登録制度」を施行し、生涯学習に関する知識・経験・技能を有している人材を発掘。その情報の提供により、充実した市民の生涯学習を支援した。（登録件数：106件、前年度対比6件増）

○図書館システムにより、市内五つの図書館（室）のネットワーク化、蔵書のデータ化など管理運営を向上

させるとともに、市民にさらに親しまれる図書館づくりの充実を図った。

絵本の読み聞かせや、折り紙教室なども積極的に行い、利用促進を図った。図書購入費（備品購入費）は年間 600 万円を確保し資料の充実に努めた。

蔵書冊数： 99,728 冊（前年度 95,538 冊） ※電算登録分、雑誌・視聴覚資料は含まない

登録率： 22.00%（前年度 20.18%） ※市内登録者÷人口

貸出点数： 101,442 点（前年 104,660 点） ※雑誌・視聴覚資料・団体貸出などを含む

○人権教育の推進

- ・学校、行政諸機関、各種団体等との連携により、人権教育や人権啓発のために作成されたポスターの掲示や機関誌の購入、研修会の案内をした。

○市民の生涯学習の拠点となる施設の管理運営

- ・博物館、図書館等を除いて、生涯学習課が所管する社会教育施設の利用状況は次のとおりである。
- ・市民の生涯学習の拠点施設となるべく、適切な管理運営を行った。

公民館の利用状況

地域	施設名	26年度(人) (A)	25年度(人) (B)	比較(%) (A/B)
萩原	山之口公民館	1,903	2,004	95.0
	あさんず会館	3,492	3,828	91.2
小坂	湯屋地区公民館	2,206	2,465	89.5
下呂	竹原公民館	7,503	10,181	73.7
	上原公民館	4,253	3,611	117.8
	中原公民館	3,898	4,423	88.1
金山	下原公民館	7,170	8,261	86.8
	菅田公民館	3,045	2,864	106.3
	東公民館	1,357	826	164.3
馬瀬	馬瀬中央公民館	3,769	3,457	109.0
計		38,596	41,920	92.1

位山自然の家の利用状況

	開設期間	26年度(A)	25年度(B)	比較(%) (A/B)
利用者数(人)	4月～11月	4,707	5,552	84.8

星雲会館管の利用状況

	開館日数	26年度(A)	25年度(B)	比較(%) (A/B)
利用者数(人)	347日	50,107	58,514	85.6

いきいきセンターの利用状況 金山地域 菅田地区内

	26年度(A)	25年度(B)	比較(%) (A/B)
利用者数(人)	1,379	1,235	111.7

山之口キャンプ場の利用状況

	開設期間	26年度(A)	25年度(B)	比較(%) (A/B)
利用者数(人)	4月～11月	126	380	33.2

中川原キャンプ場の利用状況

	開設期間	26年度（A）	25年度（B）	比較（%） （A/B）
利用者数（人）	4月～10月	1,618	1,842	87.8

◇だれもが楽しく気軽にスポーツに親しめる環境づくり【楽しむ】

- (1) 生涯スポーツ社会の実現に向けた地域スポーツの振興
- ① 住民自らが行う地域スポーツの振興と総合型地域スポーツクラブ育成・支援
 - ② 生涯スポーツの指導者養成
 - ③ 学校部活動と地域スポーツ活動の連携
- (2) 競技スポーツの振興と優秀な競技者の育成
- ① 下呂市体育協会の自立支援
 - ② 見るスポーツ・支援するスポーツによる啓発
- (3) スポーツ施設の充実と活用促進
- (4) 下呂市スポーツ振興計画の評価と推進体制整備

○スポーツ推進委員(委員数 20 人)の主な活動状況

活動内容	出役延べ人数 (人)
6/21 飛騨地区スポーツ推進委員研修大会への参加	12
8/19 体力測定	12
11/8～9 下呂里山ツデーウォーク運営(参加エントリー467名)	28
1/30～31 東海4県スポーツ推進委員研究大会への参加	15
3/8 第39回ひだ金山清流マラソン大会運営(参加エントリー657名)	11

○スポーツ推進審議会(委員数 10 人)を2回開催し、スポーツ振興の方針と重点および評価等の審議、下呂市スポーツ振興計画について協議を行った。延べ 15 人出席

○下呂地区体育施設管理運営業務を委託した。

業務内容：下呂地区の体育施設等の利用申し込み受付

業務物件：下呂地区社会体育施設 5 か所、学校開放施設 6 か所

委託先：下呂温泉しらさぎスポーツクラブ

○下呂里山ツデーウォーク実施した。

・11月8日(萩原地区)参加者(エントリー数)332名

・11月9日(馬瀬地区)参加者(エントリー数)135名

○優秀な選手・団体に対する表彰や激励金の交付

全国大会出場選手等激励 32 人、2 団体 激励金交付総額 160,000 円

市長や体育協会長から激励を受けることにより、選手の士気向上に寄与した。

○下呂市体育協会運営補助

加盟種目団体数：21 団体(内 2 団体は休止中)3,546 人

○ひだ金山清流マラソン大会を次のように開催した。

大会の概要

- ・名 称：～ギフチョウの里～第 39 回ひだ金山清流マラソン大会
- ・日 時：3月8日(日) 9:40 ハーフスタート、10:00 ファミリースタート、10:05 ジョギングスタート
- ・コース：金山リバーサイドスタジアムを発着とする馬瀬川沿線コース
ハーフ 21.0975 km、ファミリー 5 km、ジョギング 2 km

[エントリー数]

	26年度(人) (A)	25年度(人) (B)	比較(%) (A/B)
ハーフ1部	38	42	90.4
ハーフ2部	114	108	105.5
ハーフ3部	13	23	56.5
ファミリー1部	87	106	82.0
ファミリー2部	29	27	107.4
ファミリー3部	23	35	65.7
ファミリー4部	70	72	97.2
ファミリー5部	12	8	150.0
ファミリー6部	8	10	80.0
ジョギング	263	243	108.2
計	657	674	97.4
参加者数	601	627	95.8

※市内エントリー380人、市外エントリー277人

○スキーの集いを開催、市内の小学生を対象にスキーの技術指導を行った。

日 時：平成27年1月18日(日)

場 所：モンデウス飛騨位山スノーパーク

参加者：合計100名(初心者コース42名、初級者コース40名、中級者コース18名)

○グラウンド使用状況

地 域	施 設 名	26年度(人) (A)	25年度(人) (B)	比較(%) (A/B)
小坂地域	ふれあいグラウンド	4,093	3,894	105.1
	きこちゃんスタジアム	3,833	4,604	83.2
	湯屋グラウンド	248	502	49.4
	学校開放施設(3カ所)	3,530	3,310	106.6
萩原地域	南部グラウンド	346	508	68.1
	北部憩いの広場	477	50	954
	学校開放施設(5カ所)	5,112	5,446	93.8
下呂地域	和佐グラウンド	3,575	3,481	102.7
	上原グラウンド	1,536	910	168.7
	下呂テニスコート	4,031	4,929	81.7
	湯之島グラウンド	4,836	2,792	173.2
	学校開放施設(6カ所)	11,352	7,556	150.2
金山地域	金山グラウンド	4,783	6,425	74.4
	金山テニスコート	870	1,633	53.2
	学校開放施設(5カ所)	5,957	9,791	60.8

馬瀬地域	馬瀬憩いの広場	3,940	5,352	73.6
	栃尾ふれあい広場	15	30	50
	学校開放施設（2カ所）	333	349	95.4
合 計		58,867	61,562	95.6

※ 指定管理施設を除く

○体育館の利用状況

地域	施設名	26年度(人) (A)	25年度(人) (B)	比較(%) (A/B)
小坂地域	小坂体育館	4,296	4,906	87.6%
	湯屋体育館	824	656	125.6%
	学校開放施設（2カ所）	3,153	2,379	132.5%
萩原地域	南部体育館	7,191	6,879	104.5%
	山之口体育館	1,936	2,178	88.9%
	学校開放施設（7カ所）	21,056	18,113	116.2%
下呂地域	下呂体育館	15,860	15,376	103.1%
	学校開放施設（7カ所）	35,316	35,602	99.2%
金山地域	学校開放施設（5カ所）	9,929	9,317	106.6%
馬瀬地域	馬瀬武道館	1,612	2,700	59.7%
	学校開放施設（2カ所）	1,487	2,931	50.7%
合 計		102,660	101,037	101.6%

○B&G海洋センター

中津川市の指定管理施設「加子母B&G海洋センター」（プール、体育館、トレーニングルーム、研修室）について、中津川市との施設管理運営に関する協定に基づき、同市が支出する維持管理費のうち、半額を支払った。

利用状況

	26年度(A)	25年度(B)	比較(%) (A/B)
利用者数(人)	15,925	14,820	107.5

○元気ではつらつ増進施設

施設の利用状況

	26年度(人) (A)	25年度(人) (B)	比較(%) (A/B)
上ヶ平サンビレッジ	23,579	22,694	103.9
金山リバーサイドスポーツセンター	64,016	66,901	95.7
合 計	87,595	89,595	97.8

開館日数 金山リバーサイドスポーツセンター 299日

上ヶ平サンビレッジ 299日

○御嶽パノラマグラウンド

NPO法人高所トレーニング環境システム研究会の指定管理。

施設の利用状況

	26年度(人) (A)	25年度(人) (B)	比較(%) (A/B)
利用者数	5,589	4,829	115.7
(団体数)	(104)	(118)	

○舞台峠ドーム

中津川市との施設管理運営に関する協定に基づき、使用料等を下呂市と中津川市の折半で収入したうえで、両市の所要一般財源額が同じになるよう中津川市から負担金を受けている。

施設の利用状況

	26年度(人) (A)	25年度(人) (B)	比較(%) (A/B)
利用者数	6,319	11,667	54.1

○地域スポーツ事業実施業務委託

地域スポーツ事業推進のため下呂市総合型地域スポーツクラブ連絡会に委託した。

萩原地域スポーツ事業 11回、小坂地域スポーツ事業 8回、
下呂地域スポーツ事業 1回、金山地域スポーツ事業 7回
馬瀬地域スポーツ事業 8回、
スポーツクラブ連絡会全体事業 3回、事業運営会議 全7回

○あさぎりスポーツ公園の利用状況

	26年度(人) (A)	25年度(人) (A)	比較(%) (A/B)
あさぎり体育館	23,843	29,080	81.9
あさぎりグラウンド	13,964	10,898	128.1
あさぎり野球場	9,924	8,550	116.0
あさぎりテニスコート	8,865	8,994	98.5
あさぎり弓道場	6,165	6,810	90.5
合計	62,761	64,332	97.5

○あさぎりスポーツ公園施設整備事業

あさぎり体育館耐震補強工事実施のための設計を行った。

設計業務委託 対象：下呂市萩原あさぎり体育館（下呂市萩原町羽根 1696 番地 1）

鉄筋コンクリート造 一部鉄骨造 2階建 延床面積=2,698.94 m²